令和４年度(2022 年度)　第１回学校運営協議会議録

日　時　令和４年(2022 年)５月 25 日（水）　１３：３０～１５：００
場　所　北海道釧路養護学校　集会室
出席者　学校運営協議会委員　新橋第一町内会長　高橋　實　様
北海道社会福祉事業団白糠学園長　細川　和則　様（欠席）
ゼペットの会会長　佐藤　みちる　様
釧路孝仁会看護専門学校学科長　岡田　智重　様
北海道釧路養護学校ＰＴＡ役員　八幡　百合香　様
北海道教育大学釧路校教授　小野川　文子　様
障がい者就業生活支援センター「ぷれん」センター長
高谷　さふみ　様
北海道釧路養護学校　校　長　髙橋　好則（委員）
副校長　齋藤　利文
教　頭　武藤　健司
事務長　本行　隆司
主幹教諭　佐々木　尚美
総務部長　杉村　昭恵
教務部長　井土　登美子
学部主事(小)　長屋　さおり
学部主事(中)　堀　輝太
学部主事(高)　志田　雅昭
寄宿舎庶務部長　平田　桂
寄宿舎男子棟主任　荒川　隆史
寄宿舎女子棟主任　石橋　令子

日程及び内容
13:30～　開会・日程説明　副校長
１　発令通知（辞令交付）校長　→　辞令未着のため次回交付
13:35～　２　校長挨拶　髙橋校長
13:40～　３　自己紹介　各委員・職員　→　省略
13:45～　４　会長選出　会長　小野川　文子　委員　満場一致
５　会長挨拶　小野川会長
13:50～　６　学校支援部会
(1)　学校評価の結果について
質疑・協議等
委員　ＩＣＴの活用については、職員の働き方改革の観点から職員の日々の業務に対しても活用を検討してみてはどうか。
委員　コロナ感染対策に関わらず、やむを得ず欠席する児童生徒への学びの保証は重要だが、長期間欠席となる児童生徒に対し学校と地域の連携、地域からのサポートができないか。そのための実態を把握する必要がある。

職員　長期間やむを得ず欠席している児童生徒は本校にもいる。要因いろいろなことが考えられる。高等部に在籍している生徒が多く、本校入学前の小学校・中学校の時から不登校の生徒もいる。このことから、どのような背景や要因で不登校になった分析し、根気強い対応が必要だと考えている。
長い時間を要することを想定するがしっかりした原因を把握するため、本年度から主幹教諭の業務に位置づけている。

委員　不登校の子には早めの対応が必要である。保護者の方の協力を得ながら原因を探るべき。
原因は絶対にある。一人一人に個性がある。不安を取り除いてやること。

委員　長期間やむを得ず欠席している児童生徒のためのチームや組織はあるか

職員　昨年度までは、専門のチームはなく、担任あるいは、学年、学部での対応であったが、
今年度からは、不登校の対応の業務を主幹教諭の業務に位置づけるとともに、主幹教諭、学部主事３名のチーム体制の中で、学校としての取組の方向を明確し、取り組めるよう組織を再構築しております。

委員　不登校にも色々なタイプがあり、学校だけではなく、地域でできることがある。
身体的に介助が必要な子は受け入れる側のスキルが必要。

委員　保護者の方から厳しい意見があったが、先生方も一生懸命だとおもう。
それでもなんらかの原因があるはずなので明確にするべき。保護者の誤解もあるかもしれない。

(2) 第三者評価について
説明者　主幹教諭　佐々木　資料配付、ＰＣ画面

質疑・協議等

委員　全体として高い評価となっており、保護者からの信頼の厚さも感じられる。
相対的に評価が低かった項目については十分に検討し改善を図ってほしい。
「各教員、学部間の引継ぎの課題」、「学校に行けなくなっている児童生徒への対応」については、教職員の多忙化や児童生徒の実態に即した教職員体制に大きな要因があると理解するが、引き続き改善を図るようお願いしたい。
高等部は卒業に向け就職や自立という大きな課題を担っていることから、高等部職員自らが厳しい評価としたと考えられる。
高等部の教育目標や課題は、高等部だけの問題ではなく、小・中・高の１２年間を通じて身につけたい力。
各部の教育課程、教育内容の関連性や系統性、そのための引継ぎをどうしていくかが重要。

14:30～　７　令和４年度学校経営の方針について
校長　　資料配布
教育課程のグランドデザインについて
井土　　資料配付、ＰＣ画面

８　会長挨拶

15:00　９　諸連絡　　閉会